

中小企業の業況は、持ち直しの動きが見られる。

山口商工会議所では、管内中小企業95社を対象に景況調査を実施し、このほど令和2年10月～令和2年12月期実績と令和3年1～3月期見通しについての調査結果（回答数77社、回答率81%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲53%から▲37%とマイナス幅が縮小した。業種別にみると、製造業は▲73%から▲30%と大幅に上昇しているが、来期は▲30%と現状維持の見通しである。建設業は▲33%から▲23%と上昇しており、来期も▲8%とマイナス幅が縮小する見通しである。小売業は▲42%から▲46%と僅かに低下したが、来期は▲43%とマイナス幅が縮小する見通しである。サービス業は▲62%から▲33%と大きく上昇しているが、来期については▲42%とマイナス幅が拡大する見通しである。

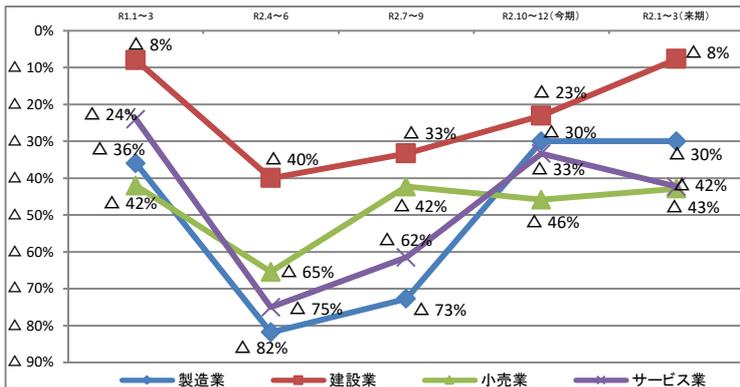
今回調査では、新型コロナウイルスの影響がありながらも全業種に上昇傾向が見られた前回調査と比較して、業種ごとにばらつきが見られた。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の18%、来期設備投資を実施予定の企業は11%であった。経営上の問題点については、新型コロナウイルスの影響を指摘するその他が上位から外れ、全ての業種で需要の停滞が1位に挙げられた。製造業と小売業、サービス業ではニーズの変化への対応が上位に挙げられ、また、製造業とサービス業では生産設備の不足・老朽化と店舗の狭隘・老朽化が上位に挙げられた。

◆業況DI値（今期の状況）

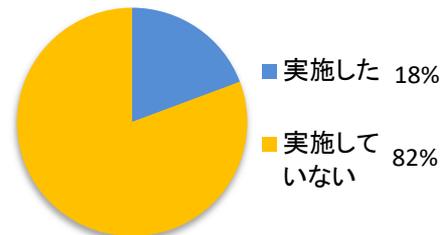
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△ 37%	→	△ 42%	→	△ 14%	→	8%	↘	△ 38%	→	△ 6%	↘
製造業	△ 30%	→	△ 30%	→	△ 10%	→	10%	↘	△ 20%	→	11%	↘
建設業	△ 23%	→	△ 31%	→	△ 8%	→	31%	↘	△ 38%	→	0%	→
小売業	△ 46%	↘	△ 44%	→	△ 20%	→	4%	↘	△ 44%	→	△ 4%	→
サービス業	△ 33%	→	△ 46%	→	△ 8%	→	△ 4%	↘	△ 33%	→	△ 12%	↘

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

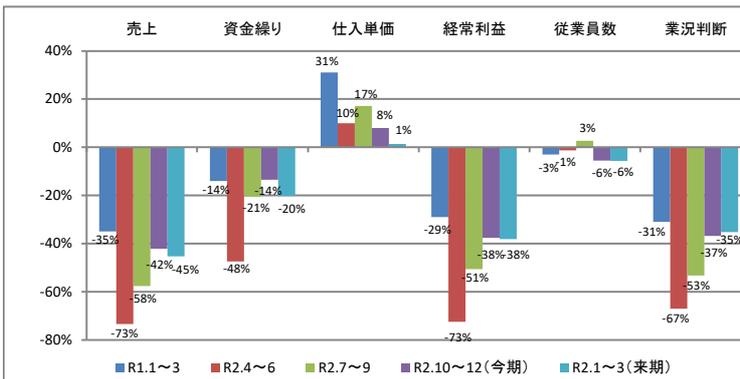


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

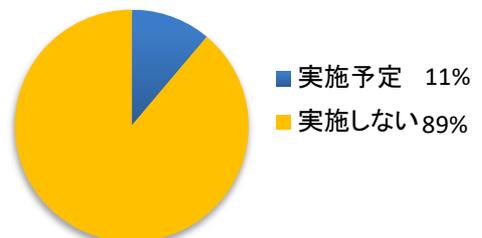
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 35.3%	民間需要の停滞 21.2%	需要の停滞 23.0%	需要の停滞 22.2%
2位	製品ニーズの変化への対応 17.6%	熟練技術者の確保難 18.2%	購買力の他地域への流出 14.8%	利用者ニーズの変化への対応 20.6%
3位	生産設備の不足・老朽化 11.8%	官公需要の停滞 12.1%	消費者ニーズの変化への対応 14.8%	店舗施設の狭隘・老朽化 14.1%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。